

第34回日本脳ドック学会総会 ランチョンセミナー4

抗A β 抗体薬治療における アミロイドPETの役割

座長

関西医科大学 神経内科学講座 主任教授

薬師寺 祐介 先生

演題・演者

抗A β 抗体薬治療のために知っておきたい アミロイドPETの基礎

大阪大学放射線科学基盤機構 先進アイソトープ診療学共同研究部門 特任教授

加藤 弘樹 先生

演題・演者

アミロイド陽性について考える ～アミロイドPETの役割～

国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長

田中 智貴 先生

●日時・会場

2025年 6月28日(土)
12:30～13:30

第2会場 (TFTビル 西館2階)

〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館

※整理券の配布はございません。
(会場前にお越しいただいた順番でのご入場となります。)

共催：第34回日本脳ドック学会総会／PDRファーマ株式会社

後援：日本脳神経核医学研究会／日本核医学会

演題 抗A β 抗体薬治療のために知っておきたいアミロイドPETの基礎

大阪大学放射線科学基盤機構 先進アイソトープ診療学共同研究部門 特任教授 加藤 弘樹 先生

アルツハイマー病に対する疾患修飾薬の臨床導入に伴い、その適応診断として、すでに承認されていたアミロイドPETが満を持して保険適用となり、多くの施設で検査が始まっている。アミロイドPETは、脳内のA β 蓄積を直接可視化でき、陽性であれば抗A β 抗体薬の投与適応となる。また最近、治療開始後もアミロイドPETを用いてA β の除去効果を客観的に評価することで、投与完了の判断が可能となった。依然脳ドックにおいても、アミロイドPETは有用な診断ツールである。診断が二者択一で重要性が高いため、資格を有する医師による高精度の診断が要求される。さらにその画像診断に客観的性を与えるため、SUV_R、Zスコア、センチロイドスケールといった指標が導入されている。本セミナーでは、アミロイドPET薬剤、検査、そして画像診断・解析法について概説し、若干の症例提示を加えてアミロイドPETの実際と活用について説明する。

演題 アミロイド陽性について考える ～アミロイドPETの役割～

国立循環器病研究センター 脳神経内科 医長 田中 智貴 先生

アルツハイマー病のアミロイド抗体療法の高台により、認知症診療においてアミロイド β 陽性ありきの時代が訪れている。Core biomarkerとして現時点では脳脊髄液検査によるA β 42/40比とアミロイドPET検査が認められているが、それぞれに長所や検査の限界がわかってきている。本講演ではそれぞれの特徴を理解し、適切な評価に繋げるための知識について整理を行いたい。

日本脳神経核医学研究会及び日本核医学会入会のすすめ

日本脳神経核医学研究会は、日本核医学会の分科会として、脳核医学に関する基礎および臨床研究の推進とその普及をはかり、それを通じて我が国の学術文化の発展に寄与し、国民の保健と福祉の向上に資すると共に、国際協力につとめることを目的として平成12年11月3日に発足しました。脳核医学の発展には、放射線科や核医学科において検査を実施する医師や技師に加えて、脳神経外科、神経内科、精神科など臨床診療に携わる医師、装置や医薬品の開発を行う物理工学、薬学、化学などの基礎研究者の協力が不可欠です。本研究会は、これらの学際的な領域の医療関係者や研究者を対象に、セミナーや講演会などを開催して、脳核医学の幅広い普及をめざします。また、さまざまな課題に対応するために、ワーキンググループを設置して議論を深めていく予定です。

研究会の会員相互の情報交換には、インターネットを活用して幅広く情報を提供していきたいと考えています。本研究会が主催、共催する行事や関連研究会の案内もホームページでご覧いただけます。会員が情報を共有するとともに、外部に向けて発信できる新しいタイプの研究会を指向して活動を行っていききたいと考えています。

この趣旨にご賛同いただき、核医学の発展のために、是非本研究会、学会にご入会いただきますようお願い申し上げます。

詳しくはホームページをご覧ください。 <http://www2.convention.co.jp/jcnn/>

日本脳神経核医学研究会事務局

〒100-0013 千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞ヶ関ビル18F 日本コンベンションサービス株式会社内
Tel:03-3508-1243 Fax:03-3508-1302 E-mail:infojcnn@convention.co.jp



JCNN